

インフルエンザワクチンQ & A

- インフルエンザワクチンの接種は何回受ければよいのでしょうか。
インフルエンザワクチンは原則1回接種です。
- インフルエンザワクチンの接種を受けることが適当でない人や接種時に注意が必要な人はいますか。
【予防接種を受けることが不適当と考えられる方】
インフルエンザワクチンの予防接種が不適当と考えられる方は、以下のように考えられます。
 - (1) 明らかな発熱を呈している方
 - (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
 - (3) インフルエンザワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方
 - (4) 上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方【接種要注意者（接種の判断を行うに際し、注意を要する方）】
次のいずれかに該当すると認められる場合は、医師が健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行うなど、注意して接種します。
 - (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
 - (2) 以前の予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方
 - (3) 全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のある方
 - (4) 過去にけいれんの既往のある方
 - (5) 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
 - (6) 気管支ぜんそくのある方
 - (7) 本剤の成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーを呈する恐れのある方
- インフルエンザワクチンでどのような効果が期待できますか？
一般的に、インフルエンザワクチンは、重症化防止効果や発症予防効果が期待されていますが、感染防止効果については保証されていません。頻繁に手洗いをすることや、人混みを避ける、などの感染予防策を講じることが必要です。
- インフルエンザワクチンの接種によって引き起こされる症状（副反応）は？
比較的頻度が高い副反応としては、接種した部位（局所）の発赤・腫脹、疼痛などがあげられます。また、全身性の反応としては、発熱、頭痛、悪寒、倦怠感などが見られます。また、ワクチンに対するアレルギー反応（発疹、じんましん、発赤と掻痒感）が見られることがあります。
- ワクチンの効果はどのくらい持続しますか？
これまでのインフルエンザワクチンでは、ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後2週間から5ヶ月程度と考えられています。
- 妊婦に対してもワクチンを接種することができるのですか？催奇形性はないのですか？
一般的に妊娠中の全ての時期において接種可能であるとされています。
- 授乳中にインフルエンザワクチンを接種しても問題ありませんか？
授乳期間中でも、インフルエンザワクチンを接種しても支障はありません。母乳を介してお子さんに影響を与えることはありません。